

人材養成および教育研究上の目的
史学専攻においては、日本史学・東洋史学・西洋史学・考古学の各専修においてカリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では、学部での習熟度を踏まえ、演習と講義を通して研究課題の総合的な把握・理解・解決のための方法を体得させ、もって社会諸方面の要請に応えることのできる専門職業人を育成することを目的とする。博士課程後期では、前期課程で培った専門的能力をより錬磨させ、体系的な研究業績の達成はもとより、社会に貢献する高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）
＜博士課程前期＞		
人文科学研究科史学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（文学）の学位を授与する。	人文科学研究科史学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	人文科学研究科史学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生等を受け入れる。
知識・理解 【学修成果の目標】 ・専門分野において自らの研究課題を発見し、その問題解決のための方法とそれを論文の形式で表現することができる。（DP1） 【到達指標】 ・研究課題を発見し、その解決方法を論文として表現できる。（DP1） ・最終試験に合格している。（DP1）	【教育課程の編成】 各専修に特講を配置し、受講者に専門分野の理論と方法を学修させる。あわせて他専修の課目を履修させ、幅広い知識を身に付けさせる。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 講義又は文献（論文）講読の形式で行われる。 【学修成果の評価方法】 各授業で与えられた課題の到達度により、評価する。（DP1）	【求める学生像】 史学専攻では、広く歴史に関心をもち、歴史学を学ぶための基礎学力を具えるとともに、歴史研究を通じてものごとの本質を見抜き、自ら問題解決のできる創造性かつ積極性にあふれる精神をもつ学生を求める。
技能 【学修成果の目標】 ・史資料に対して深い理解を有し、高度な専門的知識にもとづいて文化遺産の調査・保存・活用に従事できる。（DP2） 【到達指標】 ・高度な専門的知識にもとづく技能を活かして研究課題を発見し、論文として表現できる。（DP2） ・最終試験に合格している。（DP2）	【教育課程の編成】 各専修に演習と史料講読（実習）を配置し、受講者に専門分野の技能と論文作成の技術を身に付けさせる。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 演習担当者である指導教員の助言・指導を受けながら、自らの研究テーマを追究していく。 【学修成果の評価方法】 各授業で与えられた課題の到達度により、評価する。（DP2）	【入学者選抜の在り方】 志望する専修に関する専門知識を具えるとともに、歴史学全般にわたって広い知識をもっていることが選抜の条件となる。そのため、論文の提出を求めるとともに、筆記試験において各専修に必要な専門知識を問い、さらに口頭試問を課する。
態度・志向性 【学修成果の目標】 ・研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。（DP3） ・自らの研究課題とその解決方法を論文の形式で表現する意欲を持っている。（DP4） ・専門的知識を文化遺産の調査・保存に活用する意欲を持っている。（DP5） 【到達指標】 ・研究倫理を踏まえて研究課題を発見し、論文として表現できる。（DP3・DP4） ・専門的知識を文化遺産の調査・保存に活用し、社会に貢献することができる素地を持つ。（DP5） ・最終試験に合格している。（DP3・DP4・DP5）	【教育課程の編成】 各専修に特講（講義又は文献講読）・史料講読・演習の三種類の授業科目を配置している。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 専修科目の演習担当者を指導教員とし、その下で授業科目の選択、学位論文の作成にあたり、研究倫理も身につける。 【学修成果の評価方法】 各授業で与えられた課題の到達度により、評価する。（DP3・DP4・DP5）	
＜博士課程後期＞		
人文科学研究科史学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（文学）の学位を授与する。	人文科学研究科史学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。	人文科学研究科史学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生等を受け入れる。
知識・理解 【学修成果の目標】 ・専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、研究者として自立した活動ができる。（DP1） 【到達指標】 ・学術誌に論文が掲載される。（DP1） ・学位（博士）論文を提出し、最終試験に合格している。（DP1）	【教育課程の編成】 研究指導科目（特別研究）と特論の二種類の授業科目を配置している。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 特別研究担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成にあたる。特論は講義にあたる。 【学修成果の評価方法】 学術論文や学位論文の提出により、評価する。（DP1）	【求める学生像】 史学専攻では、専門分野に関する高度な知識を具えるとともに、博士課程前期で培ったスキルをさらに磨き、蓄積してきた研究成果をいっそうひろげ深めようという向上心・探究心をもつ学生を求める。
技能 【学修成果の目標】 ・史資料の調査・保存・活用に指導的な役割を果たすことができる。（DP2） 【到達指標】 ・史料集・資料目録・文化財調査報告書等の作成で指導的な役割を果たすことができる。（DP2） ・学位（博士）論文を提出し、最終試験に合格している。（DP2）	【教育課程の編成】 研究指導科目のうちから一つの特別研究科目を選定し、これをその学生の専修科目とする。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 特別研究担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成にあたる。 【学修成果の評価方法】 学術論文や学位論文の提出により、評価する。（DP2）	【入学者選抜の在り方】 専門分野において自らの研究課題を発見し、その問題解決のための方法とそれを論文の形式で表現する方法とを身につけていることが選抜の条件となる。そのため、論文の提出を求めるとともに、口頭試問を課する。
態度・志向性 【学修成果の目標】 ・研究倫理に関する規範意識を身につけている。（DP3） ・専門分野において後進を指導し育成する資質や指導力を持っている。（DP4） ・専門分野において後進を指導し育成する意欲を持っている。（DP5） 【到達指標】 ・研究倫理を踏まえた上で、学会運営や研究会等で中心的な役割を果たすことができる。（DP3・DP4・DP5）	【教育課程の編成】 論文指導科目「特別研究」と「特論」を開講している。 【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 「特別研究」や「特論」において議論を重ねたり、研究活動の運営に携わることにより、研究倫理を養い、経験を積むことにより、後進を指導・育成する力を培う。 【学修成果の評価方法】 学術論文や学位論文の提出により、評価する。（DP3・DP4・DP5）	